

I 自己評価

1 学校教育目標	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP） ・主体的に多様な人々と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見・解決に取り組む生徒 ・心身の鍛磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組む、地域社会の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP） ・生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 ・「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を主体的に学習に取り組み態度を育成 ・基本的学習習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP） ・基本的な生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 ・進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組む、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 ・部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒

2 評価する領域・分野	◇ 保健厚生部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「生徒の安全・衛生面に配慮した安全指導や地震や台風等の対応についての対策マニュアルの周知」に関して、生徒からは昨年度比12.6%増の94.1%、保護者からは14.6%増の85.6%と高い評価を受けることができた。 ・「学校行事の実施にあたり、新型コロナウイルス感染症対策を講じて適切に計画されているか」に関して、生徒からは昨年度比18.2%増の90.7%、保護者からは18.9%増の82.4%と高い評価が得られた。 ・「健康診断や保健講話などを通して生徒の健康管理の意識向上を行っているか」に関して、生徒からは前年度比11.3%増の90.2%、保護者からは14.3%増の78.1%とすべての項目について高い評価を得ることができた。来年度も継続していきたい。		
4 今年度の具体的なかつ明確な重点目標	◇ 保健衛生・福利厚生 (1) 健康診断・予防接種の意義への理解と円滑な実践 (2) 健康的で快適な職場づくりのための相互理解と厚生活動の推進 (3) 学校全体で感染症対策とその予防に努める (4) 学校全体で取り組む正しい性モラルの向上 (5) 校内販売の健康的な展開と生徒自身の健康管理へのアプローチ ◇ 環境整備・防災対策 (1) 環境教育の充実と生徒・職員全体で取り組む積極的な環境美化活動 (2) 防災・危機管理を核に据えた防災組織の改善と安全教育の一層の充実		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	◇ 保健衛生・福利厚生 (1) 健康管理センター・教育相談センターとしての保健衛生活動の充実 (2) 職員間の親睦を深める、快適な職場作り (3) 生徒・職員が新型コロナウイルス等感染症予防に努めるための対策 (4) 学校全体で取り組む、性非行の撲滅と正しい性へのアプローチ (5) 生徒・職員の健康とニーズに配慮した校内販売の推進 ◇ 環境整備・防災対策 (1) 気持ちのよい学校生活環境づくりのため、職員・生徒が協力し環境美化活動に積極的に取り組み、校内環境の向上を図る (2) 防災・危機管理に関する啓発により事故の未然防止、災害の二次被害防止を図る		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 健康診断・環境調査等の計画的実施と結果報告および保健衛生活動の充実 (2) 生徒指導との連携及び保健講話による性モラルに関する啓発 (3) 美化活動の推進。環境美化委員会をはじめとした生徒への啓発 (4) 非常変災時の対応マニュアル作成とその運用の徹底 (5) 命を守る訓練、防災アクションの活用・推進による防災意識の向上 (6) 校内販売に関する計画と、衛生管理の充実 (7) 毎朝の検温と健康チェック及び手洗い、手指消毒、黙食、換気の徹底 (8) 安全点検の効率的実践と、迅速な対応	(1)健康診断（4～5月）、環境調査（各月）、学校保健安全委員会（9月・2月）、学校安全衛生委員会（2月）の実施 (2)保健講話（性に関する講話：10月）性に関する実態把握・個別相談（随時） (3)ごみ分別・清掃活動の充実（毎日・大掃除のとき） (4)職員救急救命講習（9月）、非常変災時対応（随時） (5)命を守る訓練（5月・9月・12月）防災リーダーとなる生徒の主体的取組（防災アクション） (6)校内販売計画の掲示・販売ブースの見回り（毎月・随時） (7)毎朝の健康観察チェック用紙の確認・保管。手指消毒の徹底。職員による昼食時の巡回 (8)校内安全点検（毎月）		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点		10 評価
・各種検診・環境調査等の計画的実施、結果報告 ・性に関する指導 ・非常変災時の適切な対応・生徒の主体的取組 ・環境美化活動の活性化 ・校内販売の適正な運営 ・新型コロナウイルス感染症対策	①計画的実践 ②保健室（養護教諭）による個別相談および保健講話による啓蒙 ③対応の迅速さ、適切さ、生徒の取組状況 ④校内美化の進捗 ⑤計画書の掲示とブースの見回り ⑥健康観察所における朝の健康チェック（9月迄）		A B C D A B C D A B C D A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	○新型コロナウイルス感染症対策の毎朝の健康観察について方法を検討・実施することで、生徒の体調管理を十分に把握できた。 ○健康診断をコロナ以前の日程で実施することができ、その結果を生徒本人および保護者に書面・面談により通知した。学校保健安全委員会において報告することによって、データの活用と問題点の改善を図ることができた。 ▲健康診断の結果、再検・受診等が必要になった生徒において、連絡後も治療等の対応を取らない生徒が一部見られた。本人および保護者への連絡手段の検討が必要である。特に眼科・歯科において顕著だった。（毎年の傾向） ▲新型コロナウイルス感染症対策として、家族間感染で陽性となった生徒が多数発生した。校内では生徒に対して注意喚起を行ったため、生徒間でのクラスターの発生は避けられたが、今後も引き続き情報提供や啓蒙を行っていく必要がある。		総 合 評 価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	・新型コロナウイルス感染症予防対策に関しては、目まぐるしく変化する状況に対応するよう、取り組みの検証を常に行い、来年度に向けてよりよい方策を考え、本校において感染者の拡大・クラスターを発生させないように取り組む必要がある。生徒一人一人には三密の回避・手洗い・手指消毒・黙食・換気を行う意識を高めさせる。今年度同様に関係機関と連絡を密にとり実施していく。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年 月 日

【意見・要望・評価等】
